特長

- 1つの現場でプライマーの使い分けが不要です。
一般鉄部をはじめ、ガルバリウム鋼板などの非鉄金属のほか、コンクリートや住宅屋根スレートなど様々な下地へ適応します。JASS 18 M-109適合品です。
- 塗り替え適性に優れます。
弱溶剤のため、既存塗膜を溶かしにくく、塗り替え用プライマーとして最適です。
- 作業性が抜群です。
刷毛、ローラーの作業性に優れ、速乾性で作業効率が良く、温度条件によっては、その日のうちに上塗りの塗装が可能です。
- 良好な防錆効果を発揮します。
特殊エポキシ樹脂を使用しており、他社構造物錆止めペイント(JIS K5551 A種相当)と同等レベルの防錆力を示します。
- 遮熱タイプをラインアップしています。
エポラオールプライマーの性能に、遮熱機能をプラス！遮熱タイプの上塗りとの組み合わせをおすすめします。
- 環境配慮型塗料です。
鉛系やクロム系の顔料を含んでいない、地球環境に配慮した塗料です。しかも弱溶剤タイプのため低臭で、安全な塗装環境で作業ができます。

試験成績

※試験成績に記載の試験結果は、参考値であり、規格値ではありません。

試験項目	試験方法	規格	試験結果
付着性	JIS K 5600 間隔：2mm、マス目数：25	25/25	剥離無し
耐水性	JIS K 5600 浸漬時間7日	塗膜の外観に異常のないこと。	異常なし
耐温水性	60℃温水浸漬 浸漬時間7日	塗膜の外観に異常のないこと。	異常なし
耐塩水噴霧性	JIS K 5600 浸漬時間480時間	塩水噴霧に耐えること。	異常なし
耐複合サイクル防食性	塩水噴霧0.5時間→湿潤(30℃)1.5時間→熱風乾燥(50℃)×2時間→温風乾燥(30℃)2時間を1サイクルとして36サイクル	複合サイクルの試験に耐えること。	異常なし
日射反射率	JIS K 5602に準拠。(遮熱ホワイト)	近赤外波長域の反射率を明記	65~75%

標準色

- グレー ● 赤サビ
- 黒サビ ● 遮熱ホワイト

荷姿

- 16kgセット { A液 14kg
B液 2kg
- 4kgセット { A液 3.5kg
B液 0.5kg

標準塗装仕様

※塗装仕様に関する詳細は、最寄りの営業所にお問い合わせください。

- ① 下地調整
 - フクレ、割れ、浮きなどの劣化塗膜はケレン工具を用いて除去してください。
 - サビは電動工具やサンドペーパーなどを用いて除去し、被塗面を清掃してください。
- ② シンナー
 - 無希釈でご使用ください。*1
- ③ 可使時間
 - 6時間(23℃)です。
- ④ 施工方法

塗装方法	刷毛・ローラー・スプレー
希釈率	0% *1
使用量	0.13~0.16kg/m ² *2
膜厚(ドライ)	30~40μm *3

 - ※1: 冬季や乾燥が著しく速い猛暑時に塗りにくい場合は、NT塗料用シンナーAを、5%以内を目安にご使用ください。
 - ※2: 吸い込みが激しい下地の場合、最大で0.50kg/m²を目安としてください。
 - ※3: 厚膜仕様での施工は別途最寄りの営業所にお問い合わせください。
- ⑤ 乾燥条件

乾燥条件	5℃	23℃	30℃
指触乾燥	3時間	1時間	30分
上塗施工間隔	6時間以上72時間以内	3時間以上72時間以内	2時間以上72時間以内

 - ※最短の施工間隔は、その日の環境条件により異なることがあります。
 - ※水性上塗り塗料についても使用可能です。施工間隔については23℃条件下で12時間以上を目安にしてください。プライマーに含まれる有機溶剤が揮発しないと上塗りの剥離原因となります。詳細は最寄りの営業所にお問い合わせください。

主な適用下地

△=あらかじめ試験施工を行い、付着性の確認を行ってください。

下地	適用性	下地	適用性	下地	適用性	下地	適用性
鉄	○	電気亜鉛メッキ	○	アルマイトシルバー、ブロンズ	×	厚型スレート瓦	○
トタン	○	ボンデライト	○	FRP	△	セメント瓦	○
化成処理亜鉛鋼板	○	ステンレス	○	硬質塩ビ	○	粘土瓦	×
ブリキ板	○	銅板	○	軟質塩ビ	×	GRC板	△
溶融亜鉛メッキ鋼板	○	ガルバリウム鋼板	○	塩ビ系鋼板	×	押出成形セメント板(ECP)	○
クロメート処理鋼板	○	アルミニウム	○	波型スレート	○	コンクリート、モルタル	○
リン酸塩処理鋼板	○	アルマイト処理板	△	薄型化粧スレート	○	木部	△

主な適用既存塗膜

△=あらかじめ試験施工を行い、付着性の確認を行ってください。

既存塗膜	付着性	既存塗膜	付着性
合成樹脂調合ペイント(OP)	△	シリコンアルキド樹脂塗料	○
フタル酸樹脂エナメル(EF)	○	エマルジョンペイント	○
エポキシ樹脂塗料	○※1	水性ポリアウレタン樹脂塗料	○
ポリアウレタン樹脂塗料	○※1	水性アクリルシリコン樹脂塗料	○
塩化ゴム系樹脂塗料	△	水性フッ素樹脂塗料	△
アクリル樹脂塗料	○	瀝青系シルバー塗料	×
ラッカー塗料	○	シリコンポリエステル	△
アルミニウムペイント	×	オイルフリーポリエステル	△
フッ素樹脂塗料	△	メラミンアルキド	○
シリコンアクリル塗料	○	アクリルメラミン	○

※1:強溶剤塗料で全く溶解しない場合は、予め試験施工を行い、付着性の確認を行ってください。

主な適用上塗り塗料

●弱溶剤形上塗り塗料各種

その他、外装材、塗り床材、防水材の下塗りにもご使用いただけます。

■施工上の注意事項

- 本製品は、多少の吸い込みに対応できるよう顔料を少なく設計しています。このため、施工方法や使用量、希釈量、下地の状態によりムラになる場合があります。
- 施工当日から施工後翌日までに降雨、降雪が予想される場合や気温5℃以下、湿度80%以上の施工は避けてください。塗膜が未乾燥状態で降雨や夜露などにあたると艶引けや白化などの原因につながります。特に冬季は乾燥に時間がかかりますので、乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。気温が5℃以上でも、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がかかりますので施工間隔が変わります。
- 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに施工を終了し、十分に乾燥時間を確保してください。光沢低下、フクレ、割れ、ハガシの原因になります。
- 漏水がある場合や予測される場合は、下地調整前に確認し、適切な対策を行ってください。
- 高圧水洗浄やスプレー施工では、周辺の状況をよく確認し十分に養生を行ってください。
- 被塗物表面の塵、ホコリ、コケ、藻類や既存塗膜のチョーキング、浮き、ハガシなどは高圧水洗浄(10Mpa以上)で完全に除去してください。その際、高圧水洗浄は圧力とノズル距離を正しくとってください。
- 高圧水洗浄ができない場合はホースで水を流しながらワイヤーブラシなどを用いて塵、ホコリ、藻、コケ、かび類を完全に除去してください。
- 水洗いは1日以上乾燥させてください。各工程では、雨や露などで濡れている場合は十分に乾燥させてから施工してください。
- 油分が付着している場合は溶剤拭きなどで除去してください。

- 洗浄後、瓦の破損やズレ、役物の釘浮きなどの確認を行い、瓦の取り換えや補修が必要な場合は適切に処理してください。
- 鋭角部は、ワイヤーブラシやサンドペーパー、電動工具などで入念にサビを除去し、脱脂後、時間をあけずにエポラオールプライマーを塗り込んでください。
- 改修工事の場合、既存塗膜の種類や劣化状態を確認し、健全な状態であり、しっかりと付着していることをテープテストにて確認してください。
- 改修工事の場合、既存塗膜の種類によっては溶剤などの影響により、既存塗膜を侵しリフティング(塗膜の手入れ)やフクレが発生する場合がありますので、既存塗膜を必ず確認の上で塗装仕様を決定してください。塗装仕様については、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 塗料は必ず標準塗装仕様の規定割合で割合し、電動攪拌機などで十分に攪拌してから施工してください。
- 本製品以外の他の塗料やアルコール、水との混合は絶対に行わないでください。
- 塗料の希釈率は標準塗装仕様の範囲内で試験施工などにより決定し、同一条件で施工してください。希釈率は色や施工条件により、変化しますのでご了承ください。
- 塗料を使用する前や小分けする場合には、塗料を十分に攪拌して均一な状態にしてから計量し、ご使用ください。
- 標準塗装仕様の使用量が塗られていない場合、本来の塗膜性能が発現しないことがありますので規定量を守って施工してください。早期の耐候性低下や変色、剥離、遮熱性能や耐候性などの塗膜劣化が低下につながります。
- 夏季、炎天下でエアレスホース内に塗料を入れたまま放置しないでください。詰まりの原因となります。

- 各工程において、施工間隔(塗り重ね時間)を守ってください。施工間隔は、気象条件などにより変わります。塗膜の硬化が不十分な状態で施工するとリフティング(塗膜の手入れ)を起こしたり、施工間隔を過ぎると付着性が悪くなります。施工間隔があいた場合は、施工面をサンディング、シンナー拭きし、再度プライマーを施工してください。
- 施工後、未乾燥状態で降雨や結露などの水分の影響を受けると白化する場合があります。その場合、ペーパー掛け、シンナー拭きなどで白化した層を除去後、清掃し、塗装してください。
- ローラーや刷毛、スプレーなど施工方法が異なる場合、使用量、表面肌などが異なることで若干色相や仕上がりに差が出る場合があります。
- ローラー施工の場合、ローラー目は同一方向に揃えるように行ってください。ローラー目の方向により色や仕上がりが異なって見える場合があります。
- シーリング面への施工は極力避けてください。塗膜の汚れや割れの原因となります。
- 使用器具は、使用後すみやかにラッカーシンナー(もしくはウレタンシンナー、アクリルシンナー)で洗浄してください。
- 施工後の塗膜は滑りやすくなりますので、作業は充分注意して行ってください。施工後は、滑雪性がよくなる場合があります。積雪時にまとまった雪が落ちる可能性がありますのでご注意ください。
- 詳細は、弱溶剤形上塗り各種塗料の個別カタログをよくお読みになり正しくご使用ください。ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 塗料は用途・用法を守り、上述カタログの仕様や注意事項をよくお読みになり正しくご使用ください。

■取り扱い上の注意事項

- 火気のあるところでは、絶対に使用しないでください。
- 万一、火災が発生した場合はABC粉末消火器にて消火するなど適切な手段を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中とともに換気を充分に行い、ミストや蒸気を吸い込まないようにしてください。
- 取り扱い中は皮膚に触れないよう、有機溶剤の蒸気を吸わないように、必要に応じて有機ガス用防毒マスク、手袋および前掛けなどの保護具を着用してください。
- 取り扱い作業中、容器からこぼれないよう注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布したのち処理してください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけておいてください。
- 容器(取っ手を含む)はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときは、適切なつり方で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください。偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります。
- 取り扱い後は洗顔、手洗いおよびうがいを充分に行ってください。

- 目に入った場合は多量の水で少なくとも5分以上洗い、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 誤って口に入った場合は、口を水でよくすすぎ、すみやかに医師の手当てを受けてください。飲み込んだ場合は直ちに医師の診察を受けてください。
- 材料が皮膚に付着した場合は、多量の水で洗い流したのち中性石鹸と水で十分に洗ってください。痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。作業着などに付着した場合は、すみやかに着替えを行ってください。
- エポキシ樹脂系塗料は体質により皮膚障害などの感作を受ける場合があります。医師の指導を受け必要な措置を講じてください。
- 皮膚障害、呼吸障害がみられる場合は、医師の診断を受けてください。
- 蒸気やガスを吸い込んで気分が悪くなった場合は空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 本製品の保管は必ずフタをし、雨露や直射日光の当たらない換気の良い冷暗所に保管してください。(水系塗料は凍結を避けてください)現場で材料を保管する場合は、直射日光や雨露が当たらない、風通しの良い涼しい場所で保管してください。特に

- 夏季に車内での保管や高温になる場所での保管は危険ですので避けてください。
- 子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、廃液・汚泥などは関係法規に基づき、自社で適正に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 本製品は環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用したいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 本製品は、揮発性の化学物質(有機溶剤など)を含有し、臭気が発生します。あらかじめ元請や施工、近隣住民への説明を行い、了解を得てください。臭気が周辺にある物に付着する場合があります。付着が予想されるものは、施工箇所からできるだけ遠ざけ、屋内に揮発成分が流入しないように養生を行ってください。また、化学物質過敏症やアレルギー体質の方がいる場合には本製品との接触や施工を避けてください。
- 本製品の取り扱い並びに輸送及び保管については、労働安全衛生法や消防法、道路運送車両法、船舶安全法、港則法などの各種適用法令を遵守してください。
- 製品をご使用の際は、必ず、警告ラベル、安全データシート(SDS)をご参照ください。

*製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。

【その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください】

日本特殊塗料株式会社

■お問い合わせ先

東京営業所	〒114-8584 東京都北区王子3-23-2	☎(03)3913-6203	FAX(03)3913-6323
神奈川営業所	〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10	☎(0463)23-2135	FAX(0463)23-3739
中部営業所	〒472-0006 愛知県知立市山町東並木北12	☎(0566)81-8111	FAX(0566)81-8124
大阪営業所	〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12	☎(06)6386-8492	FAX(06)6338-3560
中四国営業所	〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13	☎(082)423-8231	FAX(082)423-8256
九州営業所	〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726	☎(0942)89-5766	FAX(0942)89-5762

●日本特殊塗料ホームページ <https://www.nttoryo.co.jp/>